

【平成20年度施策評価基準】

(5段階の施策評価方法)

	目的等の重要度(期待)	コストパフォーマンス	目標等の達成度(成果)	関連波及効果
評価	この施策の目的が、現在、村として重要度、あるいは優先度が高いかどうか。また、今後への期待度が高いかどうかを評価するもの。	平成21年度、前年同様の成果を得るために、予算・人員・時間などを節約できたか。あるいは、予算・人員・時間などは前年同様でも、成果が高まったかどうか評価するもの。	平成21年度において、施策の目標がどの程度達成され、成果があったかを評価するもの。	その施策の実施によって、(所期の目的以外に)何か波及効果があったかどうか評価するもの。 (例えば、「村民との協働性」「人材育成」「環境への配慮」など)
A	施策としての重要度・優先度が極めて高い。(今後大いに期待できる)	コストパフォーマンスが極めて高かった。	目標が十分達成され、極めて大きな成果(効果)があった。	施策の実施により、村民との協働性・納得性・人材育成・環境への配慮など波及効果が極めて高かった。
B	施策としての重要度・優先度が高い。(今後に期待できる)	コストパフォーマンスが高かった。	目標に向かって、成果(効果)があった。	成果により、村民との協働性・納得性・人材育成・環境への配慮など、波及効果があった。
C	施策の重要度・優先度は普通。村の施策として引続き進めたい。	概ね前年同様に施策が実施された。	目標が概ね達成され、一定の成果(効果)があった。	特段には波及効果はなかった。
D	施策としての重要度・優先度はあまり高くない。(今後の期待度も低い)	コストパフォーマンスが低かった。	目標があまり達成されず課題が残り、改善の余地がある。	あまり成果がなかったために、村民との協働性・納得性・人材育成・環境への配慮などに課題が残った。
E	施策としての重要度・優先度が極めて低い。(今後の期待度も極めて低い)	コストパフォーマンスが極めて低かった。	目標は達成されず、課題は大きく、抜本的な見直しが必要である。	成果がなかったために、村民との協働性・納得性・人材育成・環境への配慮などに画題が大きい。